

# HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No. 26

## 東大阪中央ロータリークラブ

創立 昭和47年2月20日  
例会日 毎週月曜日 12:30~  
例会場所 シェラトン都ホテル大阪  
事務所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38  
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号  
TEL. 06 (6772) 2320  
FAX. 06 (6772) 2327  
E-mail:hcrc@at.wakwak.com



会長 百 濟 洋 一  
会長エレクト 切 石 博 之  
副 会 長 瀧 田 浩 彦  
幹 事 三 木 武 志  
会報委員長 福 岡 康 民

## THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS

### ロータリーの未来はあなたの手のの中に

2009~2010年度 国際ロータリー会長 ジョン・ケニー

第 1756 回例会 平成 22 年 2 月 22 日 (月曜日) 第 26 号

#### 本日の例会

2月22日(月)第4例会

- ◎ソング 「四つのテスト」  
◎卓 話「ゴルフ上達のポイントと目標設定の大切さ」  
ゲストスピーカー アドバンス開発㈱  
代表取締役 大東 将啓様  
(担当: 出原正秀会員)  
◎本日の献立 お造り定食

#### 次回の例会

3月1日(月)第1例会

- ◎卓 話 「市政昨今並びに今後の展望」  
ゲストスピーカー 東大阪市長 野田 義和氏  
(市長の職務の都合により  
急遽変更する場合があります)  
(担当: 浅野光男会員)  
◎本日の献立 軽 食

#### 前回の例会記録

2月15日(月)第3例会

- ◎ビジター 奈良RC 宮崎彰夫氏 他1名  
◎ゲスト 清水興一郎氏

#### 会 長 挨拶

会長 百濟洋一

東大阪中央ロータリークラブ次年度の会長ノミニエを報告します。浅野光男会員に次年度会長ノミニエを引き受けて頂くことになりました。尚、次年度理事については後日報告しますのでよろしくお願ひします。

2月9日の日経新聞に「切手大に新聞2000年分」の

見出し記事がありました。文書の電子化の促進については、平成17年4月1日より「e-文書法」が施行され、民間事業者は法令で義務付けられている書面(紙)による保存等に代わり、電磁的記録による保存等が行えることとなりました。電子的に保存された多様な情報を、法令に則して適切に保管することが求められつつあります。新聞記事には、慶応大学・東芝などと、情報端末のデータ記録を使うソリッド・ステート・ドライブ(情報端末記憶装置SSD)の容量を大幅に増やす技術を開発した。多数の半導体メモリーを積み重ね、切手サイズで約2000年分の新聞を記録できる1テラ(テラは1兆)バイトの容量を実現した。2012年ごろに実用化し、体に着けて医療データを計測保存するウェアラブル端末や防犯用などの小型センサー向けに応用を目指す。電子技術開発は素晴らしいと思います。

#### 幹事報告

幹事 三木武志

1. 地区大会当日のネームカードをポストに配布していますので、2月26日(金)~2月27日(土)大阪国際会議場には必ずご持参ください。
2. 春のライラ開催のお知らせがきています。参加青少年のご推薦及びロータリアンのご参加をお願ひ致します。ご案内をポストに配布しております。
3. 2月20日(土)第3回クラブ社会奉仕委員長会議には鈴木委員長に出席して頂きますので宜しくお願ひ致します。
4. 他クラブ例会変更及び休会の案内を掲示しています。

## 出席報告

岡本委員	
本日の会員数	42名
本日の出席者数	29名
本日の出席規定適用免除会員	15名
本日の出席率	80.56%
2月1日の修正出席率	85.29%

## SAAニコニコ箱

### 大石副SAA

百済会長 和田会員、これからよろしくお願ひします。  
三木幹事 和田会員を迎えて42名になりました。  
松岡会員 瀧田会員、お誕生日お目出とうございます。  
切石会長エレクト、米山功労賞お目出とうございます。人生の目標です。そば近くにいて幸せです。

## 卓話

### 「紙の歴史と現状」 宮崎康治

#### ◎紙のない時代の記録材料

文化の発進に伴い人々は業績または伝説等を永く後世に伝えたいと思うようになって来ました。古代エジプトではすでにBC4000年の昔、象形文字を岩石に刻みつける方法が用いられていました。簡単な石板に刻むようになり、その後記録作成の欲求が強まると共に更に、便利な材料を必要とするようになってきました。粘土板、木板、金属板等のほか、皮革、木の葉、木の皮など様々なものが使われました。

#### (1) 粘土板

主にメソポタミアで使われていました。柔らかく湿った粘土を板状にし、葦の茎などでくさび形文字を記してから、乾燥させたり焼いたりして文書を保存しました。

#### (2) パピラス

上記材料はいずれも実用上何らかの欠点があったらしく、エジプトではパピラスが多く使われるようになって来ました。「かみかやつり」といわれる萱つり草に似て、三角形の断面をもつ茎は高さ2.5mに達しその先端に総状の花が咲く。この草の茎を薄く裂いて、縦、横に並べ圧力を加えて脱水し、乾燥させたものです。BC670年代ヌマーがその著作にパピラスを用いたという記録があります。アレクサンドリアを中心として、3～4世紀頃はパピラスの製造がすこぶる盛んであったようです。

#### (3) パーチメント

羊または山羊の皮を石灰乳に漬けて脱毛し、木枠に張って乾かして表面を磨いたものです。ローマ時代に最も盛んに使用され始めました。今日でも特殊な場合には使用されている。主にヨーロッパで使用

#### (4) 竹簡・木簡

古代中国で書写材料として使われていた竹で出来た札のこと。竹の表皮を削り、適当な幅に割り適宜な長さとしたもので、紐を通して編み、何枚かを束ねて使

うことが多かった。平城京跡では木簡が発掘されている。

#### ◎紙の発明

紀元前2世紀頃、紙は中国で発明されたと考えられています。当初は試行錯誤しながらいろいろな方法で紙が作られていたようですが、西暦105年に蔡倫という後漢時代の役人が行った製紙法の改良により使いやすい実用的な紙が沢山作られるようになったといわれております。彼の使った材料は、麻のボロきれや樹皮などでした。

#### ◎紙の伝播

製紙法は8世紀に西アジアに伝わります。704～751年アラビアとトルキスタンとの間に戦争(タラスの戦い)が起こり、サマルカンドは占領された。捕虜の中に多数の中国人がいて、アラビア人はこれら捕虜のうち製紙術を知る者から技術の伝習を受けて、木綿を原料として使用し始めた。10世紀頃、エジプトに亜麻を原料とする製紙術が伝えられた。11世紀以降製紙は北アフリカ地中海沿岸地方で盛んになる。その後ムーア人によりスペインのサティバに製紙工場を設立し、ヨーロッパに伝わったと言われています。

当初は、ボロきれなどを原料としていましたが、紙の需要が増えるにしたがいボロきれが不足するようになり、これに替わる新たな原料が求められるようになってきました。1719年フランスの科学者レオミュールはスズメバチが木の繊維から巣を作るのを見て、木材を原料に紙が作れるのではないかとひらめいたのです。彼のアイデアから約125年後の1840年、木材を機械ですりつぶしてパルプを作る方法をドイツ人のケラーが発明しました。現在、原料の主流になっているパルプが使われるようになったのは、これが始まりです。ちなみに、1798年にはフランスの製紙会社技術者ルイ・ロベールが長網式抄紙機を創案。紙の大量生産は、ここから幕が開いたのです。

※ 以下は事務局で保管しています。

### 【新入会員入会式】

平成22年2月8日(月)

和田 吉成会員

